

# 病院だより

## 心房細動

町立和寒病院 副院長 中村 勝

心臓は毎日規則正しく動いています。1分間に60回～100回程度で動いているのですが、そのリズムが失われる代表的な病気が心房細動です。心房という心臓の上の方にある薄い筋肉でできている部屋があり、その動きが乱れます。年齢があがるにつれて心房細動は起こりやすくなり、女性よりも男性に多く発生することがわかっています。日本全国では70万人以上の患者さんがおり、2050年には約100万人まで増えることが推測されています。健康な方でも心房細動は起きますが、高血圧や糖尿病、心筋梗塞や心臓弁膜症などの心臓病や慢性閉塞性肺疾患などの慢性肺疾患のある方はより発生しやすくなることがわかっています。また、睡眠不足や精神的ストレスがある場合やアルコール摂取によっても発生しやすくなる場合があります。

症状としては、「こわい」、「どきどきする」、「胸が苦しい」、「息が切れやすい」、「疲れやすい」、「階段の上り下りや坂を上るのがきつい」などがあります。自分で脈を計ると脈が乱れたり、普段よりも速かったりすることがあります。また、全く症状がなくて自分では気づかず、健康診断などで心電図をとった時に初めてわかることもあります。



心房細動で心拍数やリズムが乱れたり、脈が速くなったりすること自体が生命に関わることはほとんどありませんが、長時間にわたって脈が速い状態が続くと、心臓の収縮する力が低下して心不全（心臓の能力が低下して起きる体の不健全な状態）を引き起こす場合があります。また、心房細動が続いていると心房の収縮が不規則なため、心房の中の血液が流れるスピードが低下してよどんでしまいます。すると、心房の中で血液が固まりやすくなり血栓（血管内の血液が何らかの原因でかたまりになること）ができやすくなります。こうして作られた血栓が血管の中を流れて脳の血管につまってしまうと、脳梗塞（脳を栄養する動脈がつまって脳の組織が酸素不足や栄養不足のために死んでしまうこと）を起こしてしまいます。脳梗塞を起こす原因の約15%が心房細動によるものと言われています。脳梗塞は、高血圧症、糖尿病、心不全、75歳以上、過去に脳梗塞を起こしたことがある人などに起こりやすいので注意が必要です。



治療では、発症して7日以内であれば心臓の脈拍を正常なリズムに戻すことが可能ですが、それ以上になると脈の乱れを戻すのは難しくなります。この場合は、脈拍が速くなりすぎると心臓のポンプとしての機能が落ちるので、それを防ぐために薬で脈拍数を調整したり、発作性心房細動のように時々しか心房細動にならない人の場合は発作の予防のための治療薬を飲んだりします。また心房細動によって血栓ができるのを予防するために、抗血栓薬という薬を内服します。抗凝固療法と言いますが、近年は新しい薬が出てきています。

心房細動のメカニズムは十分に解明されていませんが、最近になって肺静脈という場所の近くから異常な命令が出ることによって心房細動が生じていることが多いという事がわかってきたため、その部分にカテーテルを用いて熱を与えて焼いてしまおうという治療（カテーテルアブレーション）が行われるようになってきました。施設や方法によって差はありますが、発作性心房細動であれば1回の治療で70～80%の成功率があり、心房細動が再発しても2回目までの治療で80～90%近い成功率を得ることができるようになってきました。また、全例ではありませんが慢性心房細動でもカテーテルアブレーションが有効な場合があり、症状が強くて薬物による調節が困難な方に行われる場合があるようです。そのような場合は専門家に紹介しますので、一度ご相談ください。

参考サイト (公財)循環器病研究振興財団 知っておきたい循環器病あれこれ より

## 金銭トラブルは「少額訴訟」でスピード解決！

簡易裁判所の民事訴訟の中でも「少額訴訟」は、少額（60万円以下）な金銭トラブル（敷金の返還、ネットオークションの代金請求など）を迅速に解決することを目的とした特別な手続きです。

### 少額訴訟のメリット

- ①判決までが早い
- ②手続きが簡単
- ③トラブルの内容や相手に応じた柔軟な解決ができる

※詳しく知りたい方は、裁判所のwebサイトをご覧ください。

[http://www.courts.go.jp/saiban/qa\\_kansai/index.html](http://www.courts.go.jp/saiban/qa_kansai/index.html)